

# 日本民俗学会 第71回年会 茨城

## 第3回 サークュラー

主催 一般社団法人日本民俗学会

協力 一般社団法人つくば観光コンベンション協会・つくば市

### 日程

#### 10月12日(土)

9:00~9:30 理事会  
9:45~12:00 評議員会

12:00~ 受付開始  
13:00~16:00 公開シンポジウム  
「あしもとの歴史を見つめる—語り、書き、あらわす」  
16:15~17:50 研究奨励賞授賞式・会員総会  
18:00~20:00 懇親会

#### 10月13日(日)

9:00~ 受付開始  
9:30~12:00 研究発表(午前)  
12:00~13:00 昼食  
13:00~16:00 研究発表(午後)

会場 筑波大学春日キャンパス(茨城県つくば市春日1-2)

### 会場アクセス

- つくばエクスプレス：秋葉原駅より快速に乗車(45分)、つくば駅下車。
- JR常磐線+バス：ひたち野うしく駅・土浦駅下車、「つくばセンター」行きバスに乗車(約25分)、「つくばセンター」下車、徒歩10分。または「筑波大学中央」行きバスに乗車(約35分)、「筑波大学春日エリア前」下車、徒歩約1分。
- 高速バス
  - ① 茨城空港から高速バスに乗車(約60分)、「つくばセンター」下車。
  - ② 東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「つくばセンター・筑波大学」行き(つくば号)に乗車(約65分)、「つくばセンター」下車。
  - ③ 羽田空港から高速バスに乗車(約100分)、「つくばセンター」下車。
  - ④ 成田空港から高速バス(エアポートライナーNATT'S)に乗車(約55分)、  
➔ いずれもつくば駅(A1、A2出口)・つくばセンターから徒歩約10分。

※ 筑波大学ウェブサイトの交通アクセスのページもご参照ください。

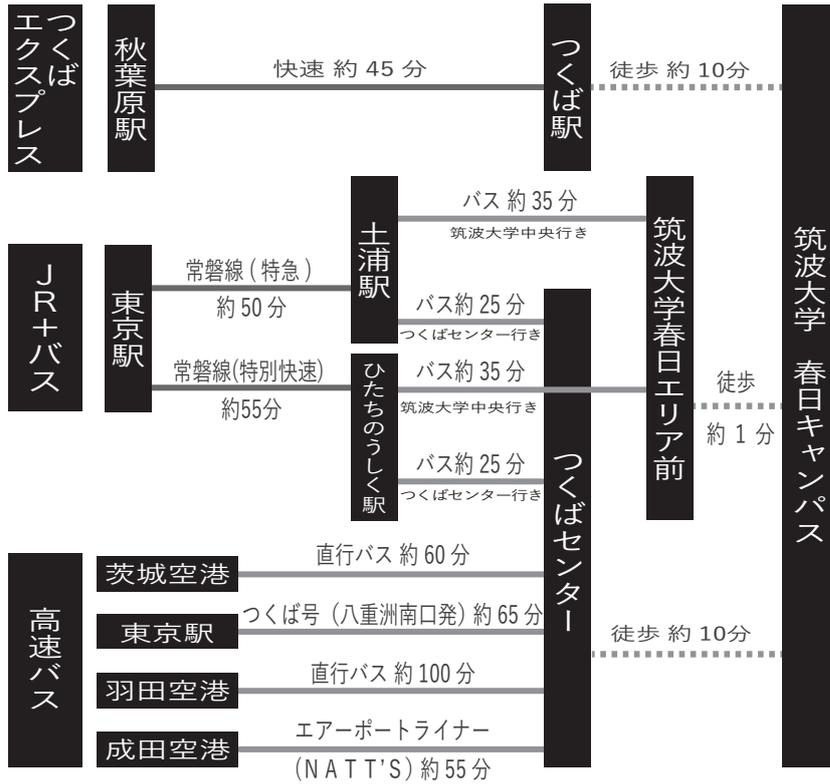
車でお越しの際は近隣の民間の駐車場をご利用ください。

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/access/access/>

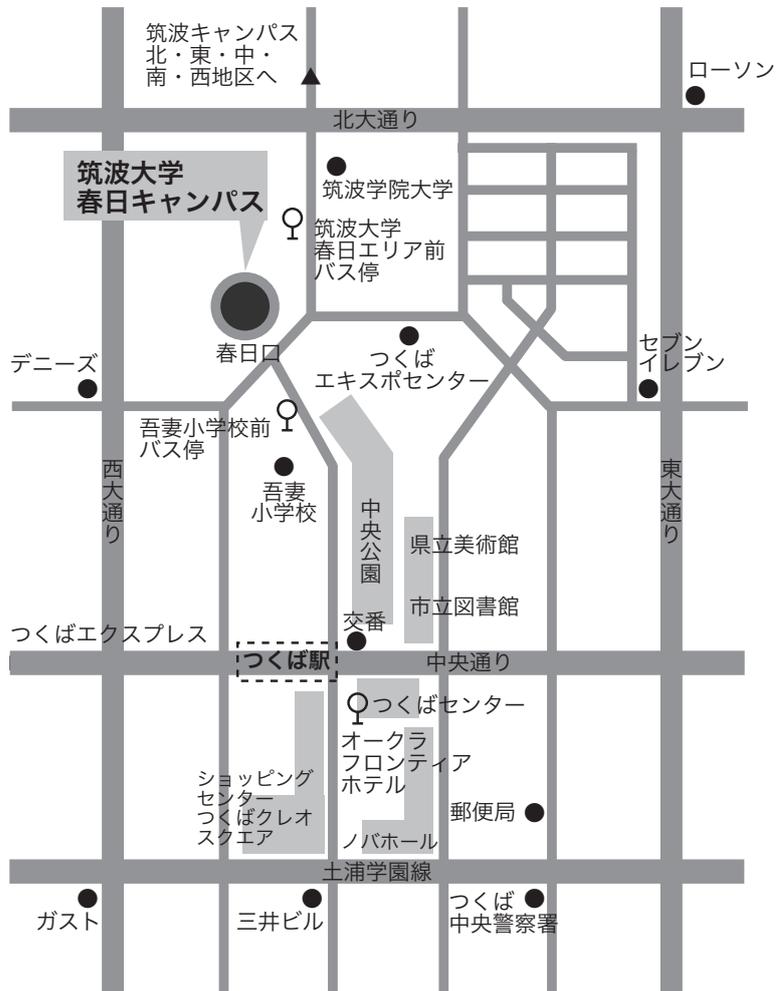
右記のQRコードからもアクセスできます。



交通アクセス



春日キャンパス周辺地図





## 年会参加者の皆さまへ

### ● 年会受付

- 受付場所は 12 日（土）・13 日（日）とも 7A 棟 エントランスです。
- 参加費を納入済みの方は、お名前をおっしゃっていただいたうえで、名札と要旨集などをお受け取りください。
- 参加申し込みをされたものの参加費が未納の方、当日参加申し込みをされる方は「当日参加受付」にてお申し込みください。今年度は参加費が未納の方には名前入りの名札を用意しておりませんのでご了承ください。
- 当日の年会参加費は一般 5,000 円、学生 3,000 円です。学生料金は年会当日、学生証を提示した方に適用されます。

### ● 名札

- 会場では常時、名札をお付けください。名札には懇親会費の支払いについての記載があります。懇親会には、必ず名札を付けてご参加くださいますようお願い申し上げます。
- お帰りの際には名札をスタッフまたは回収箱へお返しください。

### ● 懇親会

- 懇親会は 12 日（土）18 時より、春日福利厚生棟の食堂にて行います。
- 懇親会場に入場する際には名札を会場入口の係にご提示ください。
- 当日、参加を申し込まれる方は、「懇親会当日受付」にてお申し込みください。当日の懇親会参加費は、一般 6,000 円、学生 3,000 円です（非会員の方もこれに準じます）。
- 懇親会の間、荷物置き場を近くに用意しますが、盗難・紛失・毀損などについて、実行委員会としては一切責任を負いかねます。貴重品は各自で保管をお願いいたします。

### ● 休憩・昼食

- 会場最寄り駅周辺には飲食店・コンビニがいくつかありますが、大学内の食堂は土日とも閉店しておりますので、弁当の持参をおすすめします。
- 春日キャンパス内には飲み物の自動販売機がございます。また、12 日（土）、13 日（日）ともに休憩室を 7A 棟に設けますのでご利用ください。
- 13 日（日）の弁当代を納入されている方は弁当代の支払いについての記載がある名札をお持ちになり、13 日（日）11 時 30 分以降、7A 棟の受付付近にて弁当をお受け取りください。名札がないと弁当をお渡しできませんので、紛失されないようご注意ください。

### ● 書籍・研究雑誌コーナー

- 12 日・13 日の両日、以下のとおり書籍・研究雑誌コーナーを設けます。

12 日（土）	12:30~17:30	7A 棟 1 階 104 講義室、105 講義室の一部
13 日（日）	9:30~15:30	同上

● 喫煙について

- ・ 春日キャンパスは構内全面禁煙です。

● 保育室

- ・ 今年度の年会では保育室を開設します。利用申し込み方法などの詳細は年会ウェブサイトをご覧ください。

● 障害者用設備

- ・ 7A棟にはエレベーターがあります。講堂、7A棟、懇親会の会場入口にはスロープが設置されております。
- ・ 7A棟と図書館情報学図書館の間、および講堂内に「誰でもトイレ」があります。

● その他

- ・ 発表会場内では携帯電話の電源を必ずお切りください。
- ・ 会場内で何かご不明な点がございましたら、スタッフまでおたずねください。

個人発表の皆さまへ

● 使用機材

- ・ 各会場には PC(Windows) が設置され、備え付けのプロジェクターと接続しています。データは USB メモリでお持ち下さい。
- ・ 持参の PC を使用される方は備え付けの HDMI または VGA ケーブル (両方用意してあります) でプロジェクターに接続してください。Mac をお使いの方はアダプタをご用意ください。念のため、データを USB メモリでも持参されることをおすすめします。
- ・ 無線 LAN は eduroam の利用が可能です。詳細は所属機関でお尋ねください。

● 発表受付 (13 日)

- ・ 発表者は発表の 30 分前までに発表会場にて受付をお済ませください。ただし、午前最初の発表者は 9 時 15 分までに、午後最初の発表者は 12 時 45 分までに会場受付をお済ませください。
- ・ 発表者は、直前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。ただし、午前最初の発表者は 9 時 20 分より、午後最初の発表者は 12 時 50 分より待機してください。
- ・ 午前中の発表者には 9 時から、午後の発表者には 12 時から発表開始時間まで機器の動作確認のための時間を設けます。動作確認を行いたい発表者はこの時間帯でご利用ください。

● 配布資料

- ・ 配布資料がある場合は、あらかじめ 50 部以上をご用意のうえ、発表受付時に会場係にお渡しください。
- ・ 配布資料の事前送付および複写依頼はお受けすることができません。

● 発表時間

- 発表 20 分・質疑応答 5 分とし、以下のようにベルで時間をお知らせします。終了時間は厳守していただきますようお願いいたします。
  - 17 分経過 ベル 1 回（発表終了 3 分前）
  - 20 分経過 ベル 2 回（発表終了）
  - 25 分経過 ベル 3 回（質疑応答終了）
- 発表者や座長の交代、聴講者の移動のため、各発表の間に 5 分の時間をとります。この時間は発表延長のための時間ではありませんのでご注意ください。
- 発表者の責任により発表の開始が遅れた場合には定刻の範囲内で発表・質疑応答を行ってください。

グループ発表の皆さまへ

● 発表受付

- グループ発表の代表者はメンバーが揃ったことをご確認のうえ、発表予定時刻の 15 分前までに発表会場の受付をお済ませください。

● 発表時間

- グループ発表の時間枠は 120 分です。進行、質問の受付、時間配分などの運営は決められた時間内で各グループで自由に決めてください。終了時間の厳守をお願いいたします。

● 使用機材・配布資料

- 上記、一般発表と同じです。前頁をご覧ください。

個人発表の座長の皆さまへ

- ご担当の発表が始まる 30 分前までに各会場係にお申し出のうえ、発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は 9 時 20 分より、午後最初の座長の方は 12 時 50 分より待機してください。
- 上記「発表時間」に記した時間どおりにタイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間どおりに行われるようご配慮をお願いいたします。
- 進行中に問題が生じた場合は、各会場係へお申し付けください。

## 公開シンポジウム

あしもとの歴史を見つめる—語り、書き、あらわす

### 主旨

民俗学では古くから人びとの歴史を記述するという営為を行ってきた。これは人びとが語り、書き、実践し、表現する歴史自体に価値を見出すというまなざしに特徴をもっている。また、今日の民俗学では、人びとの歴史や人生の語りなどを扱うことが方法論的に見直される機運が改めて高まっている。2019年は、新たな元号を迎える年となったが、同じく、昭和という時代を迎えたばかりの1930年、柳田國男は『明治大正史世相篇』を著した。そこで柳田は、人びとの日々の暮らしや人生が記録されずに忘れ去られることを恐れ、些末な物事こそを丁寧に記述していくことを試みた。その6年後に生まれた宮田登は、後年、歴史の主体を生活する人びとそのものに置く「民俗的歴史」論を掲げていく。時を同じくして高度経済成長の中で生活や地域を見つめる視点から市民運動が盛んになり人びとが歴史の主体となっていく。しかし、その後のバブル経済とその崩壊の中で社会は急激に変化し、人びとの価値観も多様化し、地域の歴史や文化も一つのものとしては語れなくなっていく。また、現代の生活は、就学や仕事の都合で生まれ育った地域から移動、転居することも多く、地域の歴史や個人の暮らしは仮想空間を含めた様々な時や場で断片的に語られ、再編され、意味づけられ、あるいは忘れられていく。こうした現状の中で、私たちは、民俗学の立場から改めて人びとの暮らしや人生、地域の成り立ちといったあしもとの歴史を振り返る必要があるのではないだろうか。

民俗学では、語られる声、書かれた文字、モノや空間、行為としてあらわれるものに着目し、人びとの暮らしや人生といったあしもとの歴史と民俗とを相互の関連の中で厚く記述し続けてきた。他方、社会学や心理学においても臨床的研究やナラティブアプローチによる生活史の中で人びとのあしもとの歴史が記述されてきた。語りについての議論は、そこから歴史を再現するだけでなく、その底流に流れる人びとの意識を紡ぎ、文字文化に関する議論は、文字が単なる「史実」をあらわす媒体ではなく、時代状況の中に生きる人びとが伝え受け継いできた文化そのものであることを明らかにした。アメリカでは歴史学や考古学とも連動するパブリック・ヒストリーが台頭したが、日本においても公共性や社会实践の視点から博物館や教育・行政機関との連携の中で人びとが主体となる歴史を踏まえた実践的な民俗研究が進められている。あるいは、文化財保護法が文化財の「活用」に大きく舵をとった現在、地域の生活の中で受け継がれてきたあしもとの歴史はどのようにあらわされるのか。民俗を生み出し、伝承し、実践する主体としての人びとが共有する歴史とそれに基づく様々な実践と表現について、今日の民俗学からはどのようなアプローチが可能なのであろうか。今、あらためて民俗学が記述してきたあしもとの歴史を問うことで議論を深めていきたい。

日時 2019年10月12日(土) 13:00～16:00

会場 筑波大学春日キャンパス 春日講堂

- 主旨説明 古家信平（筑波大学名誉教授）
- パネリスト 東資子（一関市教育委員会）  
「人びとが語る物語を聞き、書く－沖縄県の民俗医療の事例－」
- 小池淳一（国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学）  
「伝承と文字文化－民俗学的歴史研究の方法－」
- 清水満幸（萩博物館）  
「地域博物館における「語り、書き、あらわす」ことの意味について」
- コメンテーター 門田岳久（立教大学）
- 岸政彦（立命館大学）
- 山中弘（筑波大学特任教授・日本宗教学会会長）
- コーディネーター 徳丸亜木（筑波大学）
- 渡部鮎美（放送大学）

個人発表・グループ発表

# 研究発表プログラム

**10月13日（日）**

7A棟講義室（A～J会場）

研究発表タイムテーブル (10月13日)

会場名 (講義室) 定員	A (101) 70人	B (102) 72人	C (103) 71人	D (106) 92人	E (202) 39人
9:30-9:55	A-1 川野和昭	B-1 伊賀みどり	C-1 宮平盛晃	D-1 才津祐美子	E-1 錦田寛史
10:00-10:25	A-2 グループ発表 モノが語る人と 自然、社会	B-2 グループ発表 清潔の近現代	C-2 佐藤響	D-2 門脇茉海	E-2 鈴木英恵
10:30-10:55	篠崎茂雄	門地里絵	C-3 中葉博文	D-3 田村和彦	E-3 金田久璋
11:00-11:25	今石みぎわ	原水聡史	C-4 由谷裕哉	D-4 清水博之	E-4 白川琢磨
11:30-11:55	平良宣子 大山孝正	中村純二 武馬吉則 関沢まゆみ 福田直子 新谷尚紀	C-5 久野俊彦	D-5 樋口明里	E-5 KAHRAMAN Cahit
休憩					
13:00-13:25	A-3 山本亮子	B-3 関口東亜	C-6 グループ発表 よみがえらせよう!	D-6 グループ発表 地方民間博物館	E-6 山村恭子
13:30-13:55	A-4 山下裕作	B-4 松山由布子	「野の芸術」論!	とその時代	E-7 高久舞
14:00-14:25	A-5 門口実代	B-5 村田典生	菅豊 俵木悟 加藤幸治 川田牧人	山田巖子 小池淳一 丸山泰明 小島孝夫	E-8 松岡薫
14:30-14:55	A-6 横田尚美	B-6 横田慶一			E-9 羽田野京
15:00-15:25	A-7 葉山茂	B-7 渡瀬綾乃	C-7 柴田香奈子	D-7 林春伽	E-10 近藤大知
15:30-15:55	A-8 三津山智香	B-8 大田黒司	C-8 佐藤喜久一郎	D-8 荒井浩幸	E-11 牧野由佳

会場名 (講義室) 定員	F (203) 39人	G (204) 39人	H (206) 39人	I (207) 39人	J (210) 77人
9:30-9:55	F-1 吉田征二	G-1 平松典晃	H-1 廣瀬由子	I-1 青木龍	J-1 藤崎綾香
10:00-10:25	F-2 工藤豪	G-2 宋丹丹	H-2 岸本昌良	I-2 三隅貴史	J-2 澤井真代
10:30-10:55	F-3 市川秀之	G-3 橋弘文	H-3 吉村風	I-3 市東真一	J-3 阿利よし乃
11:00-11:25	F-4 樋田竜男	G-4 三浦理沙	H-4 辻本侑生	I-4 石川俊介	J-4 加藤正春
11:30-11:55	F-5 岩瀬春奈		H-5 内山大介	I-5 雷婷	J-5 発表辞退
休憩					
13:00-13:25	F-6 清水亨桐	G-5 松本美虹	H-6 岡本真生	I-6 阿盈娜	J-6 福寛美
13:30-13:55	F-7 鈴木良幸	G-6 小早川道子	H-7 間所瑛史	I-7 佐島隆	J-7 施堯
14:00-14:25	F-8 三国信一	G-7 小笠原輝	H-8 金城ハウプトマン 朱美	I-8 塩瀬博子	J-8 平井芽阿里
14:30-14:55	F-9 小野寺佑紀	G-8 渡部圭一	H-9 秋野淳一	I-9 李干	J-9 Hara Alina- Alexandra
15:00-15:25	F-10 角南聡一郎	G-9 高木大祐	H-10 アンドリュース・ デール	I-10 陳宣聿	
15:30-15:55	F-11 川嶋麗華				

■ A会場（101 講義室）

A-1 9:30-9:55 川野和昭（鹿児島県）

竹籠仮面の比較

A-2 10:00-11:55 グループ発表

モノが語る人と自然、社会―「箕」をめぐる民俗学的研究―（代表者 今石みぎわ）

篠崎茂雄（栃木県立博物館）

「市貝の箕」に見る箕作り職人の現状と課題

今石みぎわ（東京文化財研究所）

箕のかたちと製作技術の全国的展開について―一片口箕を中心に―  
平良宣子（毛呂山町歴史民俗資料館）

箕と信仰

大山孝正（福島県文化財センター白河館）

福島県内における箕の生産と流通

休憩

A-3 13:00-13:25 山本亮子（國學院大學大学院文学研究科）

神酒口の形状と分布

A-4 13:30-13:55 山下裕作（熊本大学）

祈念する器たちの民俗誌―記念酒器に見る生活者たちの事業と願い―

A-5 14:00-14:25 門口実代（三重県総合博物館）

人びとの縁をつなぐ「嫁入り座布団」―香川県西讃地域の事例から―

A-6 14:30-14:55 横田尚美（滋賀県立大学）

滋賀県犬上郡多賀町落合の衣生活―2018年に見つかった衣料品200点弱から―

A-7 15:00-15:25 葉山茂（国立歴史民俗博物館）

守札にみる社会的関係の広がり―宮城県気仙沼市の民家を事例に―

A-8 15:30-15:55 三津山智香（筑波大学大学院）

畜産農家と絵馬―青森県おいらせ町の絵馬市に着目して―

■ B会場（102 講義室）

B-1 9:30-9:55 伊賀みどり（帝京平成大学非常勤講師）  
出産文化の戦後―「産婆さん」のライフヒストリー研究―

B-2 10:00-11:55 グループ発表  
清潔の近現代―民俗の実態と啓発の視点―（代表者 関沢まゆみ）

門地里絵・原水聡史・中村純二・武馬吉則（花王株式会社）

きれいの変遷―清潔と洗浄の文化研究の活用―

関沢まゆみ（国立歴史民俗博物館）

洗浄と清潔―民俗資料にみる入浴・洗髪・歯磨き―

福田直子（國學院大學大学院生）

歯磨きの近現代―むし歯予防から丈夫な歯へ、きれいな歯へ―

新谷尚紀（国立歴史民俗博物館名誉教授）

歴史と民俗からみる「禊ぎ・祓へ・清め」

休憩

B-3 13:00-13:25 関口東亜（筑波大学生）  
古町御嶽普勧講社におけるシャーマニズムとその精神世界

B-4 13:30-13:55 松山由布子（日本学術振興会特別研究員（PD））  
陰陽師と暦師のあいだ―奈良暦師吉川家所蔵祭文を中心に―

B-5 14:00-14:25 村田典生（佛教大学）  
長崎県旧外海町のキリスト教信仰

B-6 14:30-14:55 横田慶一（筑波大学大学院）  
寺院運営と儀礼に見る僧侶と信徒の信仰実践  
―新興の天台宗祈祷寺院における教理の受容と儀礼構築―

B-7 15:00-15:25 渡瀬綾乃（筑波大学大学院）  
「薩摩の毛坊主」再考

B-8 15:30-15:55 大田黒司（神奈川大学大学院生 開新高等学校教諭）  
天草における山岳信仰―産島、帽子岳、倉岳を事例に―

■ C会場（103講義室）

- C-1 9:30-9:55 宮平盛晃（琉球大学・島嶼地域科学研究所）  
民俗文化に残る鉄器の流入と伝播の痕跡  
－広域調査からの重出立証法と個別分析法の展開と可能性－
- C-2 10:00-10:25 佐藤響（國學院大學大学院）  
民俗の地域的特色－東京都多摩地域の場合－
- C-3 10:30-10:55 中葉博文（富山県立新湊高等学校再任用教諭）  
高校教育における探究的な学習と民俗学  
－富山県内の公立高校二校で実践した「地域調査」を例に－
- C-4 11:00-11:25 由谷裕哉（小松短期大学）  
戦時下における原田敏明の祭祀論と柳田國男
- C-5 11:30-11:55 久野俊彦（東洋大学非常勤講師）  
村落書物論－村落における書物の機能とエコロジー－

休憩

- C-6 13:00-14:55 グループ発表  
よみがえらせよう！「野の芸術」論！  
－民俗学におけるアート研究の視座の構築－（代表者 菅豊）

菅豊（東京大学大学院情報学環・学際情報学府）

「野の芸術」論序説

－「生を支えるアート（vernacular art）の創造性と社会的意味－

俵木悟（成城大学文芸学部）

オロチが境界を掻き乱す－石見神楽の蛇胴製作に見るヴァナキュラー・アート－

加藤幸治（宮城県）

メモリーオブジェクトと無用の造形

－捕鯨の町・鮎川におけるクジラの珍物をめぐって－

川田牧人（成城大学文芸学部）

シマを楽しくする方法－奄美の興宴実践－

- C-7 15:00-15:25 柴田香奈子（創価大学）  
手まねの発話から考える修道士の育成－ドイツ嚴律シト－修道会の事例から－
- C-8 15:30-15:55 佐藤喜久一郎（育英短期大学）  
「民俗的歴史」の生き延び方－多胡碑隠匿事件の背景－

■ D会場（106 講義室）

D-1 9:30-9:55 才津祐美子（長崎大学）  
「潜伏キリシタン関連遺産」の問題点と今後の課題—長崎市外海地区を中心に—

D-2 10:00-10:25 門脇茉海（公益財団法人日本交通公社）  
世界文化遺産登録後の富士信仰と観光を取り巻く動向

D-3 10:30-10:55 田村和彦（福岡大学）  
現代中国における物質文化の展示の展開と可能性について  
—国際シンポジウム「中日韓民俗博物館の現状と未来」の経験から—

D-4 11:00-11:25 清水博之（茨城キリスト教大学）  
ユネスコ無形文化遺産保護条例は何を変えたのか  
—「代表一覧表」記載後の山・鉾・屋台行事—

D-5 11:30-11:55 樋口明里（長野市立博物館）  
曳き出されなくなった屋台—モノと地域の意識—

休憩

D-6 13:00-14:55 グループ発表  
地方民間博物館とその時代—小川原湖民俗博物館の軌跡—（代表者 山田巖子）

山田巖子（青森県）

渋沢敬三のネットワークと小川原湖民俗博物館

小池淳一（東京都）

中道等の民俗学と博物館

丸山泰明（奈良県）

博物館史における小川原湖民俗博物館の特徴

小島孝夫（成城大学文芸学部）

民間博物館における民俗資料継承の課題

—世代間の民俗資料の捉え方の差異をめぐって—

D-7 15:00-15:25 林春伽（日本女子大学大学院）  
観光地におけるウチとソト

D-8 15:30-15:55 荒井浩幸（成城大学大学院生）  
長野県木曾路の町並み保存地区における暮らしの変容

■ E会場（202 講義室）

- E-1 9:30-9:55 錦田寛史（東北大学大学院生）  
「アソバレル」神々—警蹕・降神の検討からみる、「古」の解釈について—
- E-2 10:00-10:25 鈴木英恵（群馬パース大学非常勤講師）  
病いと年中行事—群馬県における道切り行事を中心に—
- E-3 10:30-10:55 金田久璋（福井民俗の会）  
狐の玉と稲荷の祭祀・勧請形態—若狭の屋敷稲荷の事例から—
- E-4 11:00-11:25 白川琢磨（福岡大学名誉教授）  
柴（シバ）の宗教民俗—柴（シバ）・榊（サカキ）・櫛（シキミ）の三角形—
- E-5 11:30-11:55 KAHRAMAN Cahit（Namik Kemal University, Turkey）  
ハレとケの境を行き来する人々—四国の神楽を例に—
- 休憩
- E-6 13:00-13:25 山村恭子（館山市生涯学習課）  
御船歌とミノコドリ—館山市相浜の「ヲフネノマチ」を中心に—
- E-7 13:30-13:55 高久舞（東京都）  
「手作り」歌舞伎の変遷と現在—菅生一座を事例として—
- E-8 14:00-14:25 松岡薫（東京外国語大学）  
俄における演目と演技の制作技法—熊本県阿蘇郡高森町の事例から—
- E-9 14:30-14:55 羽田野京（筑波大学大学院生）  
誰がアバレボー／逸脱者を禁じたか—姫島盆踊りににおける規制と解釈をめぐって—
- E-10 15:00-15:25 近藤大知（國學院大學大学院文学研究科）  
西浦田楽「山家惣とめ」考
- E-11 15:30-15:55 牧野由佳（総合研究大学院大学文化科学研究科  
日本歴史研究専攻博士後期課程）  
愛知県知多「朝倉の梯子獅子」における信仰伝承—世代間の変容を中心に—

■ F会場（203講義室）

- F-1 9:30-9:55 吉田征二（國學院大學大学院）  
観光地周縁の近隣組機能の変化―神奈川県秦野市蓑毛の場合―
- F-2 10:00-10:25 工藤豪（非常勤講師）  
隠居制家族に関する一考察―滋賀県長浜市余呉町の事例分析―
- F-3 10:30-10:55 市川秀之（滋賀県立大学）  
村落運営における当屋制―滋賀県の事例を中心に―
- F-4 11:00-11:25 樋田竜男（たかやまそふと）  
神社（山宮）と高地性集落の同一性―狼煙監視の視点から―
- F-5 11:30-11:55 岩瀬春奈（國學院大學大学院文学研究科）  
山住神社におけるゴジング供えとネギ
- 休憩
- F-6 13:00-13:25 清水亨桐（サニーパレス四谷壱番館）  
川崎市内の巡行仏習俗の伝承の現況
- F-7 13:30-13:55 鈴木良幸（日本福祉大学非常勤講師）  
「サスライ」概念にみる狩猟と災いの関係―宮崎県西都市の事例―
- F-8 14:00-14:25 三国信一（新潟県立歴史博物館）  
霊魂が出入りする窓―熊野灘沿岸地域における水窓の民俗―
- F-9 14:30-14:55 小野寺佑紀（神奈川大学大学院）  
利根川河口域における海難者供養―立正佼成会の「水難供養」を事例として―
- F-10 15:00-15:25 角南聡一郎（公益財団法人元興寺文化財研究所）  
墓標銘からみた「法師」像―在俗法師研究に向けて―
- F-11 15:30-15:55 川嶋麗華（國學院大學大学院生）  
ヤキバと火葬場における火葬の伝承と変遷

■ G会場（204 講義室）

G-1 9:30-9:55 平松典晃（帝塚山大学非常勤講師）

岡山県南部における報恩大師伝承の展開について

G-2 10:00-10:25 宋丹丹（総合研究大学院大学国際日本研究専攻）

日本における岩石伝説の「身体性」

G-3 10:30-10:55 橋弘文（大阪観光大学）

うつぼ船の再利用をめぐる伝説について

G-4 11:00-11:25 三浦理沙（國學院大學大学院生）

死者霊出現の表現

休憩

G-5 13:00-13:25 松本美虹（武蔵野美術大学 民俗資料室）

伝統工芸の継承—埼玉県秩父地域の織物産業を事例として—

G-6 13:30-13:55 小早川道子（中京大学）

伊勢湾周辺地域におけるボラの利用

G-7 14:00-14:25 小笠原輝（山梨県富士山科学研究所）

山梨県忍野村高座山草原における火入れの意義

G-8 14:30-14:55 渡部圭一（琵琶湖博物館）

石工の採石労働にみる山の環境と資源管理—近江国滋賀郡北比良村を事例に—

G-9 15:00-15:25 高木大祐（千葉県）

地域が共有するもの—和歌山県上富田町の共有林管理団体の事例から—

■ H会場 (206 講義室)

- H-1 9:30-9:55 廣瀬由子 (筑波大学人文・文化学群比較文化学類)  
灯火管制下における伝統的な「明かり」への憧憬
- H-2 10:00-10:25 岸本昌良 (日本国民)  
神前結婚式の意義—出会い式の創出—
- H-3 10:30-10:55 吉村風 (国立国会図書館)  
村規約と生活改善規約—滋賀における「生活改善規約」の変遷—
- H-4 11:00-11:25 辻本侑生 (民間企業勤務)  
民俗学者旧蔵資料アーカイブの可能性と課題に関する論点整理  
—山口弥一郎旧蔵資料を中心に—
- H-5 11:30-11:55 内山大介 (福島県立博物館)  
山口弥一郎の学問形成とノート利用の変遷—旧蔵資料アーカイブの試みから—
- 休憩
- H-6 13:00-13:25 岡本真生 (関西学院大学非常勤講師)  
ヴァナキュラー宗教の民俗誌—集団Aの事例から—
- H-7 13:30-13:55 間所瑛史 (筑波大学大学院)  
神葬祭のムラで語られる「歴史」—群馬県神流町生利戸野耕地を事例に—
- H-8 14:00-14:25 金城ハウプトマン朱美 (富山県立大学)  
ドイツのフェアアイン
- H-9 14:30-14:55 秋野淳一 (國學院大學兼任講師)  
尾崎豊の歌碑に集う人たち—東京渋谷の聖地巡礼—
- H-10 15:00-15:25 アンドリューズ・デール (東北学院大学)  
ユーモアに富む絵馬—アニメ聖地巡礼者の世界観をめぐって—

■ I会場 (207 講義室)

- I-1 9:30-9:55 青木龍 (東京都)  
東京都区部における初午行事—子どもの関与を中心として—
- I-2 10:00-10:25 三隅貴史 (関西学院大学大学院)  
神輿を担ぐことの文化政治—東京圏の神輿渡御・神輿パレードを事例として—
- I-3 10:30-10:55 市東真一 (神奈川大学大学院)  
祭礼における模倣と権威—沼田まつりを事例に—
- I-4 11:00-11:25 石川俊介 (追手門学院大学社会学部専任講師)  
諏訪大社上社御射山祭の現在—神輿登座神事を中心に—
- I-5 11:30-11:55 雷婷 (東京大学大学院生)  
中国・金山農民画の事例からみる「女性イメージ」の表象
- 休憩
- I-6 13:00-13:25 阿盈娜 (神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究科)  
モンゴル人におけるヒツジの屠殺と食事活動  
—青海省海西州都蘭県ゾンジャ鎮テンゲーレゲ村の例として—
- I-7 13:30-13:55 佐島隆 (大阪国際大学)  
トルコ共和国におけるアダック (adak: 願かけ) について  
—地域社会におけるイスラームと民間信仰—
- I-8 14:00-14:25 塩瀬博子 (福井民俗の会)  
新羅系神社について—その分布図からの考察—
- I-9 14:30-14:55 李干 (神奈川大学大学院生)  
台湾原住民セデック族の「出草 (首狩り)」風習に関する研究
- I-10 15:00-15:25 陳宣聿 (東北大学大学院生)  
いのちの区切り—台湾における夭逝した子どもの遺体処理と靈魂救済の民俗—

■ J会場 (210 講義室)

- J-1 9:30-9:55 藤崎綾香 (筑波大学大学院)  
村落祭祀を支える区長—沖縄県南城市奥武区自治会を事例に—
- J-2 10:00-10:25 澤井真代 (日本学術振興会特別研究員)  
八重山大阿母のはたらき—村落を越える活動—
- J-3 10:30-10:55 阿利よし乃 (沖縄県立博物館・美術館)  
門中墓の移動と継承—那覇・読谷の土族系門中の事例—
- J-4 11:00-11:25 加藤正春 (ノートルダム清心女子大学非常勤講師)  
沖縄県旧久志村汀間のかつての葬法をめぐって—山留と葬送—
- J-5 11:30-11:55 発表辞退
- 休憩
- J-6 13:00-13:25 福寛美 (法政大学沖縄文化研究所)  
身体と霊力—『おもろさうし』の肝
- J-7 13:30-13:55 施堯 (東京大学大学院総合文化研究科文化人類学コース博士課程)  
なぜ沖縄の民謡はいきいきとしているか—沖縄県那覇市の民謡サークルの実践—
- J-8 14:00-14:25 平井芽阿里 (中部大学)  
ユタのようでユタではない—現代沖縄のユタの役割に関する—考察—
- J-9 14:30-14:55 Hara Alina-Alexandra (琉球大学 島嶼地域科学研究所)  
「裏石垣」の祭祀継承における戦後移住者の役割  
—多様化する島嶼社会とその文化の担い手に関する—考察

## 日本民俗学会第71回年会実行委員会

実行委員長 古家信平

事務局長 徳丸亞木

### 実行委員

阿南透 石本敏也 伊藤純郎 大里正樹 大津忠男 岡田真帆 柏木亨介  
カフラマン・ジャーヒット 神谷智昭 菊池健策 後藤知美 佐藤喜久一郎  
佐野賢治 清水博之 武井基晃 田中久美子 田中伸吾 塚原伸治 戸邊優美  
中里亮平 中野泰 野場隆太 萩谷良太 林圭史 藤原洋 古家晴美 松岡薫  
松本浩一 宮前耕史 余志清 渡部鮎美 渡部圭一 (順不同)

### 院生実行委員

陳旻 羽田野京 藤崎綾香 藤野哲寛 間所瑛史  
三津山智香 森戸日咲子 横田慶一 李雪 渡瀬綾乃 (順不同)

日本民俗学会第 71 回年会実行委員会事務局

〒 305-8571

茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1  
筑波大学人文社会系 歴史・人類学専攻 気付  
日本民俗学会第 71 回年会実行委員会事務局 行

※ 学内での郵便事故に備え、上記宛名は省略せずにお書きください。  
連絡はなるべく E-mail でお願いします。

E-mail: minzokugaku2019tsukuba@gmail.com

年会ウェブサイト : <http://www.nenkai71.fsjnet.jp>  
下記の QR コードからもアクセスできます。



※ 要旨集は年会ウェブサイトにおいても公開します

